

みえ防災塾
第五期生
募集

防

災

人

三重県の
防災・減災活動を
担う人材を育てます。

防災
人

2018年度

さきもり応用コース
さきもり基礎コース

防災 人

みえの防災を担う人達へ。

みえ防災・減災センター長からのメッセージ



三重県・三重大学
みえ防災・減災センター長
三重大学
理事(研究・社会連携担当)・副学長
鶴岡 信治

三重県と三重大学は、平成 26 年 4 月から全国に先駆けた取組として、「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」を共同で発足させ、相互に連携・協力して、防災人材の育成・活用、地域・企業支援、情報収集・啓発、調査研究に取り組んでいます。

特に防災人材の育成・活用については、県と大学はこれまでも協働して「みえ防災コーディネーター育成講座」や「美し国おこし・三重さきもり塾」等の事業を行ってきましたが、平成 26 年度からは新たな人材育成プログラムとして「みえ防災塾」を開始し、これまで以上に人材の育成と活用に積極的に取り組んでいます。

「みえ防災塾」で学んだ人材が、それぞれの地域や職場で活躍している方々と連携・協力し、三重県地域の防災・減災活動に尽力していただけることを期待しています。

塾長からのメッセージ



三重大学 学長補佐(防災担当)
みえ防災塾 塾長
畑中 重光

「みえ防災塾」では、三重県地域で発生する自然災害に備え、地域の防災・減災活動を率先して担うことのできる人材を育成することを第一の目的としています。

塾生の皆さんには、授業カリキュラムを通して、防災に関わる最新の知識だけでなく、先進的・実践的な計画立案とマネジメントを実施する能力を養って頂きます。特に、演習や実習では、少人数教育や対話型教育を通じて、現場で活躍するための応用力や実践力をも身につけて頂きます。

「みえ防災塾」という名称は、これから育つ塾生だけでなく、すでに活動している「美し国三重のさきもり(補)」、「三重のさきもり」、「みえ防災コーディネーター」などの皆さんとともに、協働して三重県地域の防災・減災活動に取り組んでほしいという思いから付けられました。平成 27 年度からは「みえ防災人材バンク」という防災・減災活動に取り組む方々を支援する仕組みも始まっています。防災・減災の分野で三重県地域に貢献しようという気概を持った方々、ぜひこの「みえ防災塾」に集い、一緒に学んでいきましょう。

修了生からの声

みえ防災塾は、前身の「美し国おこし・三重さきもり塾」の時代から数えて、のべ 374 名の修了生を輩出しています（平成 29 年 3 月末現在）。修了生は三重県地域の防災・減災を担う人材としてそれぞれの地域や所属先で活動しています。

さきもり塾・先生・さきもり仲間へ感謝

防災・減災の専門基礎知識からマネジメントまで幅広く学ぶことができ、特に、特別研究ゼミでの個別指導では、先生からの鋭い質問・指導をいただき、貴重な体験を得ることができました。また、一緒に塾で学んだ仲間からも自分にはないものを吸収することができありがとうございました。

今後もさきもり倶楽部を通して仲間と共に三重県の防災力アップのお手伝いできればと思います。

大久保浩(平成22年度特別課程修了)

美し国おこし・三重さきもり塾-軌跡と展望

様々な場で活躍している仲間と志を同じくして「さきもり塾」という場で学ぶ機会を持てたことが何よりの財産だと思います。私のふだんの本拠地である行政の防災担当部署以外の様々な世界に接することができたことも貴重でした。単に「何をするか」ではなく、「何のためにそれをするのか」という意識が塾を通してより明確になりました。しかし、それが到達点ではなく、これからも「何が大事か」をより自発的に考え、地域の触媒として少しでも役に立てるよう、仲間たちと日々研鑽していきたいと思っています。

奥野真行(平成23年度特別課程修了)

小さなことから こつこつと

防災に関して何の興味もなかった私が消防団員となりそこから始まった防災への関心。一つの機関だけで防災と向き合っても一向に変化がなかった。その間に水害があり、大きな台風があり、地震があり、自分の知識の向上を図りたいと考えた。防災コーディネーター終了後、数年後にもっと上を目指したいと思ったときに出会えたのがさきもり塾、たくさんの知識を習得する絶好のチャンスと何よりもたくさんの仲間と知り合えた。これこそ大きな財産と思います。簡単なことから伝えていく重要性、繰り返し伝えていく重要性を重視し一人でも多くの方が防災減災に取り組めたらと願っています。

新谷琴江(平成22年度特別課程修了)

さきもり塾に入塾して

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の後、4月にさきもり塾特別課程に入塾し、この時期に誰もが真剣に考えた「今自分に何ができるか」という言葉を反芻し、1年間の学業を終えました。卒塾後、畑中塾長や葛葉先生から背中を押して頂き、特別研究の成果を平成24年9月に弘前大学で開催された日本自然災害学会学術講演会にて発表することができました。その後も同じ志を持ったさきもり倶楽部のメンバーと共に色々な防災関連の行事に参加し、本当に充実した日々を送っています。

松浦利昭(平成23年度特別課程修了)

出典：美し国おこし・三重さきもり塾 軌跡と展望2009-2013、p.52より



講義・演習の風景(ファシリテーション演習)



三重さきもり倶楽部の活動例(防災訓練での啓発活動)

修了生による連携した防災活動<三重さきもり倶楽部>

三重さきもり倶楽部(平成26年度に「美し国おこし・三重さきもり倶楽部」から名称変更)は、「美し国おこし・三重さきもり塾」および「みえ防災塾」の修了生が互いに情報交換を行うことにより、知識・能力のさらなる向上を図るとともに、連携・協力して三重県地域の防災力を高めることを目的に、平成23年2月に設立されました。

三重さきもり倶楽部では、学校教育現場への出前授業や地域での防災講座への講師派遣・応援、勉強会、情報共有など様々な活動に取り組んでいます。

防災人材の活用促進<みえ防災人材バンク>

みえ防災・減災センターでは、「みえ防災塾」修了生等に登録いただき、防災人材の情報を集約し、市町・企業・地域等からの要請に応じて適切な人材を紹介する制度「みえ防災人材バンク」を設け、防災人材の活用を促進しています。

みえ防災塾とは

「みえ防災塾」とは、三重県地域で発生する自然災害に備えて、自然科学、人文社会科学等、知の集積をベースに、防災・減災のための各種計画やマネジメントについて教育・研究するところです。三重県と三重大学は市町、企業、NPO、県民、各研究機関と連携協力して、防災・減災に関する専門知識と実践力を身につけ、地域づくりに貢献する人材を育成します。



三重県の防災・減災活動を担う人材を育てます。

みえ防災塾 アドミッション・ポリシー

このような人を育てます

みえ防災塾は、防災・減災活動に関して、自然科学分野や人文社会科学分野の広範囲な知識を持ち、先進的・実践的な防災・減災のための計画立案とそのマネジメントを行う能力を養います。特に、演習や実習における少人数教育、対話を重視した教育を通して、現場で活躍するための応用力や実践力を養います。

このような人を求めます

- ①防災・減災活動における問題解決の実践に情熱を持ち、三重県地域に貢献しようという気概を持った人。
- ②自然、社会、文化、人間に対して幅広い関心を持ち、それらの基礎学力を持った人。
- ③防災・減災活動を理解するために必要な自然科学、人文社会科学に興味を持ち、それらを活用する能力と自主的に学ぶ意欲を持った人。
- ④防災・減災活動に対する旺盛な好奇心を持ち、真摯に問題を探求し続ける姿勢を持った人。

みえ防災塾 2つのコース

■さきもり応用コース

さきもり応用コースを修了すると「三重のさきもり」として認定されます。カリキュラムは5つの科目とさきもり集中セミナーから構成され、定められた修了要件に従って履修します。

■さきもり基礎コース

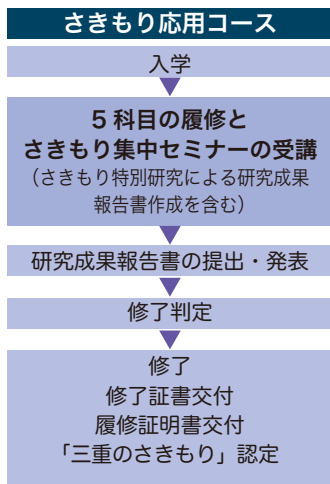
さきもり基礎コースを修了すると「三重のさきもり補」として認定されます。カリキュラムは2つの科目とさきもり集中セミナーから構成され、定められた修了要件に従って履修します。(希望者は申請すれば他の科目の講義も受講することができます。)

【入学の対象とする人物像】

- 三重県地域の住民の方
(自主防災組織、自治会のリーダーなど)
- 三重県地域の企業に勤務する人
(災害対策や事業継続計画立案担当者など)
- 三重県地域の地方公務員
(災害対策や防災の施策立案担当者、教員など)
- みえ防災コーディネーター育成講座の修了者
- 津市民防災大学、四日市市防災大学、伊勢市防災大学などの修了者

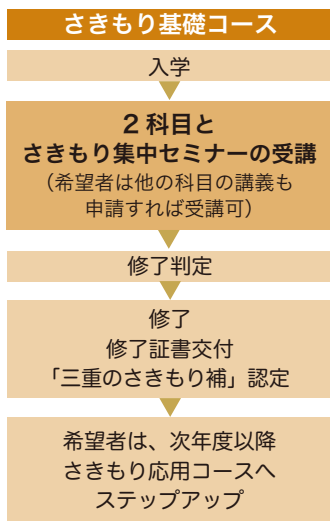
*コース修了後は「三重さきもり倶楽部」と「みえ防災人材バンク」に登録していただいております。

コース	共通日程 (予定)	開 講 日 (予 定)
さきもり 応用コース	入学式 平成 30 年 4 月 14 日 (土)	平成 30 年度 (土曜日 13:00~18:00) 【全 22 回】 ■前期 (4 月~7 月) 9 回 ■後期 (9 月~2 月) 9 回 ■他 4 回 *さきもり特別研究(ゼミ)のある日は(10:00~12:00、13:00~18:00)
さきもり 基礎コース	修了式 平成 31 年 3 月 16 日 (土)	平成 30 年度 (土曜日 13:00~18:00) 【全 12 回】 ■前期 (4 月~7 月) 5 回 ■後期 (9 月~2 月) 4 回 ■他 3 回 (希望者は他の科目も申請すれば受講可)



さきもり応用コース生

- 履修期間 原則1年(最大2年まで延長可能)
- 定員 10名
- 検定料 9,800円
- 選考方法 小論文、面接
- 学費 75,200円(入学料28,200円、授業料47,000円)[予定]
- 修了 修了証書、履修証明書は、次の条件を満たした方に対して交付します。
 - ①5科目を履修して、各科目の70%以上に出席すること。
 - ②各履修科目について、試験で評価点6以上を取得すること。
 - ③さきもり集中セミナーを受講すること。
- 修了証書 さきもり応用コースを修了すると、修了証書を交付し、「三重のさきもり」として認定します。
- 履修証明書 さきもり応用コースを修了すると、学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。

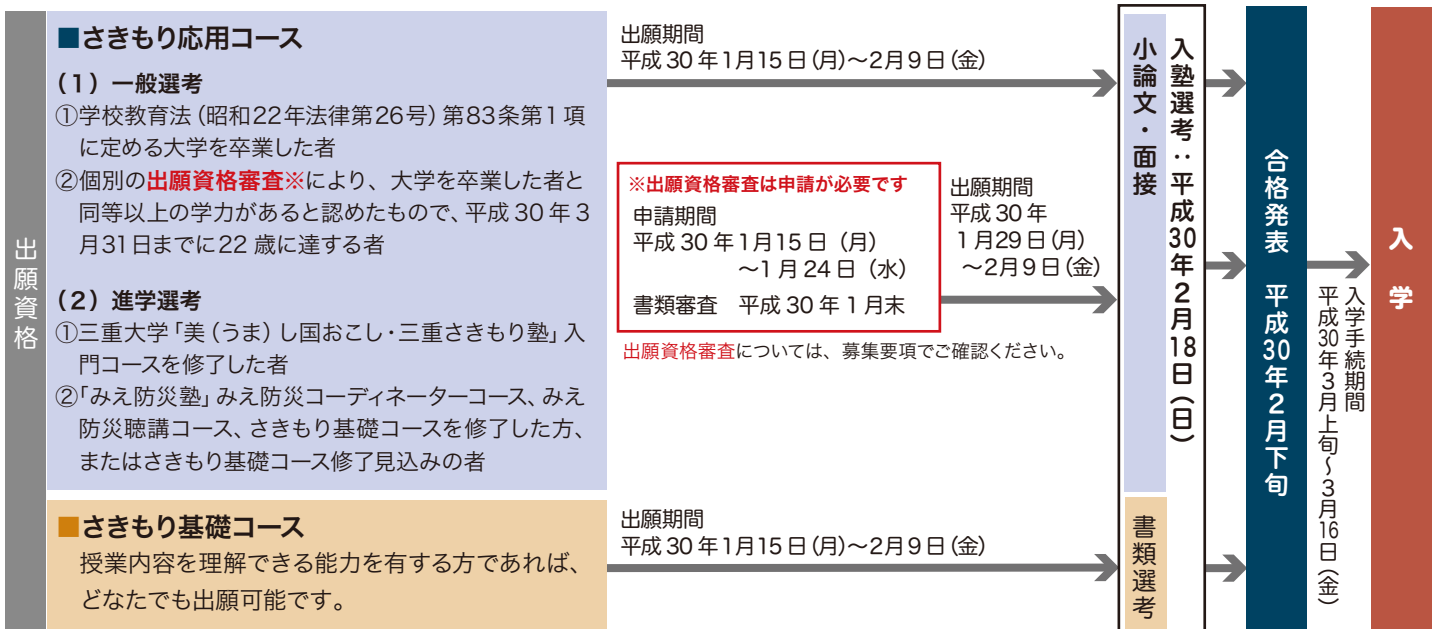


さきもり基礎コース生

- 履修期間 1年
- 定員 30名
- 検定料 なし
- 選考方法 書類選考
- 学費 18,800円(受講料18,800円)[予定]
- 修了 修了証書は、次の条件を満たした方に対して交付します。
 - ①2科目を受講して、各科目の70%以上に出席すること。
 - ②各受講科目について、試験で評価点6以上を取得すること。
 - ③さきもり集中セミナーを受講すること。
- 修了証書 さきもり基礎コースを修了すると、修了証書を交付し、「三重のさきもり補」として認定します。

各コースと募集スケジュール

出願資格と入学までのスケジュール



募集要項の請求方法

- (1) 郵送
本人の住所・氏名・郵便番号を明記して、250円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm x 240mm)を同封し、みえ防災・減災センターあてに「みえ防災塾募集要項請求」と朱書きしてください。
- (2) インターネット
みえ防災・減災センターホームページからダウンロードしてください。<http://www.midimic.jp/>

みえ防災塾 カリキュラムの紹介

● 応用 = さきもり応用コース

■ 基礎 = さきもり基礎コース

□ 基礎 = 希望者のみ(要申請)

科目名	授業の目的・概要	学期	対象	種別
防災実践基礎特論	レジリエンスの視点からみた防災活動の実践の基礎（ハザードのメカニズム、災害に備えたハードウェア対策、行政機関による災害対応活動）における近年の研究成果や技術開発の状況、特徴的な実例を題材として取り上げ、現状の到達点、成果と課題を解説する。	通年	● 応用 ■ 基礎	講義
防災実践基礎演習	レジリエンスの視点からみた防災活動の実践の基礎（防災まちづくりと東日本大震災後の課題、防災教育とリスクコミュニケーション、被災者支援、日本における災害と防災関連制度、災害に備える地域力、災害復旧と復興・被災者支援）における近年の研究成果や技術開発の状況、特徴的な実例を題材として取り上げ、現状の到達点、成果と課題を解説する。講義内容を踏まえて、受講生、講師の間で議論し、取り上げたテーマに関する理解を深める。	通年	● 応用 ■ 基礎	演習
防災実践応用特論	レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画（地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、HUG、災害時要配慮者）について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例を解説する。	通年	● 応用 □ 基礎	講義
防災実践応用演習	レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画（地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、HUG、災害時要配慮者）について、演習課題を通じて計画策定の基本的な考え方や策定手法、実践手法の基礎を修得する。	通年	● 応用 □ 基礎	演習
さきもり特別研究	防災計画あるいは実践に関する研究テーマを受講生自ら設定し、指導教員の指導のもとで、調査研究の方法、研究成果報告書の編集方法や発表方法を学習しながら研究成果報告書の作成に取り組み、レジリエンスの視点からみた防災・減災分野の課題発見と課題解決のための基礎的能力を修得する。	通年	● 応用	講義、演習、実習
さきもり集中セミナー	レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画の策定および地域の現場での実践手法について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例のうち、3つのテーマについて集中して解説する。	夏期	● 応用 ■ 基礎	講義、演習

※みえ防災塾の開講科目を三重大学博士前期課程の学生が受講することがあります。

学 習 内 容	講 師 陣 (予 定)
1 ハザードのメカニズム	鈴木康弘 (名古屋大学)、水谷法美 (名古屋大学)、立花義裕 (生物資源学研究所)
2 災害に備えたハードウェア対策	宮岡邦任 (教育学部)、花里利一 (工学研究科)、酒井俊典 (生物資源学研究所)、飯島慈裕 (生物資源学研究所)
3 行政機関による災害対応活動	三重県防災対策部職員、三重県警察本部職員、津市消防本部職員
1 防災まちづくりと東日本大震災後の課題	中林一樹 (明治大学)、三宅諭 (岩手大学)、浅野聡 (工学研究科)、水木千春 (地域圏防災・減災研究センター)
2 防災教育とリスクコミュニケーション	奈良由美子 (放送大学)、川口淳 (工学研究科)、水木千春 (地域圏防災・減災研究センター)
3 被災者支援	石井美恵子 (東京医療保健大学)、武田多一 (医学部附属病院)、水木千春 (地域圏防災・減災研究センター)
4 日本における災害と防災関連制度	塚本明 (人文学部)、津久井進 (芦屋西宮市民法律事務所)、水木千春 (地域圏防災・減災研究センター)
5 災害に備える地域力	菅原康雄 (菅原動物病院)、南部美智代 (災害ボランティアネットワーク鈴鹿)、川口淳 (工学研究科)、水木千春 (地域圏防災・減災研究センター)
6 災害復旧と復興・被災者支援	東北地方行政職員、国土交通省中部地方整備局職員、浅野聡 (工学研究科)、水木千春 (地域圏防災・減災研究センター)
1 地震対策の計画	三島直生 (工学研究科)
2 現場で使える実践手法 (タウンウォッチング)	市古太郎 (首都大学東京)
3 風水害対策の計画 (河川・海岸における災害対策)	葛葉泰久 (生物資源学研究所)
4 現場で使える実践手法 (災害図上訓練)	瀧本浩一 (山口大学)
5 企業の対応行動の計画	川合一明 (地域地震情報株式会社)
6 現場で使える実践手法 (HUG)	吉井博明 (東京経済大学名誉教授)
7 災害医療体制の計画	溝口明 (医学系研究科)、浅沼邦洋 (医学部附属病院)、荻原義人 (医学部附属病院)
8 現場で使える実践手法 (災害時要配慮者)	磯和勲子 (医学系研究科)
9 防災まちづくりの計画	浅野聡 (工学研究科)、大野研 (教養教育機構)、高田裕市 (都市環境研究所)
1-2 地震対策の計画 演習 1・2	三島直生 (工学研究科)
3-4 現場で使える実践手法 (タウンウォッチング)演習 1・2	市古太郎 (首都大学東京)
5-6 風水害対策の計画 (土砂災害の災害対策)演習 1・2	葛葉泰久 (生物資源学研究所)、沼本晋也 (生物資源学研究所)
7-8 現場で使える実践手法 (災害図上訓練) 演習 1・2	瀧本浩一 (山口大学)
9-10 企業の対応行動の計画 演習 1・2	川合一明 (地域地震情報株式会社)
11-12 現場で使える実践手法 (HUG) 演習 1・2	吉井博明 (東京経済大学名誉教授)
13-14 災害医療体制の計画 演習 1・2	田口修 (医学系研究科)、丸山一男 (医学系研究科)、竹井謙之 (医学系研究科)
15-16 現場で使える実践手法 (災害時要配慮者)演習 1・2	磯和勲子・服部由佳・平松万由子・北川亜希子 (医学系研究科)
17-18 防災まちづくりの計画 演習 1・2	浅野聡 (工学研究科)、大野研 (教養教育機構)、高田裕市 (都市環境研究所)
1 研究指導ゼミ (研究グループ分け)	各指導教員
2 研究指導ゼミ (研究ガイダンス)	
3-6 研究指導ゼミ (グループ別指導)	
7-8 中間報告会	
9-13 研究指導ゼミ (グループ別指導)	
14-15 研究成果報告会	
1 地域との連携 (災害情報の発信と活用、訓練、防災教育、災害ボランティア活動)	津地方気象台職員、飯田昌美 (防災室)、川本孝司 (津市立白塚小学校)、山本康史 (特定非営利活動法人みえ防災市民会議)
2 コミュニケーションの基本と実践	長谷川聡子 (株式会社 Will Staff)
3 ファシリテーションの基本と実践	浅海義治 (氷見市役所)



文部科学大臣認定

「職業実践力育成プログラム」(BP)に採択(平成28年12月)

「職業実践力育成プログラム (BP)」とは…

大学・大学院・短大・高等専門学校における社会人や企業等のニーズに応じた、主に社会人を対象とした実践的・専門的なプログラム

【目的】大学・大学院・短大・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会を拡大すること。(教育再生実行会議の提言を制度化)

【認定】文部科学大臣が認定するプログラム

本プログラムの特徴

参考:全国の認定プログラム件数 合計183件(平成27~28年度)

- ・「防災分野」で全国初であり、そして唯一(平成28年度現在)の認定プログラムであること。
- ・大学院(工学研究科 特別の課程)に設置したプログラムであること。
- ・経営、産業、医療、福祉等の分野が多い中で、他大学等にはない「防災分野」をテーマとしたオリジナリティに富む内容であること。



ジャパン・レジリエンス・アワード2015(強靱化大賞)の金賞(教育機関部門)を受賞!

内閣府が進める「国土強靱化基本計画」を産学官民のオールジャパンで推進することを目的に「一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会」が設立され、強靱化(レジリエンス)社会の構築に向けた取り組みとして「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」が創設されました。三重大が三重県、市町、企業、県民と協働して進めてきた「美し国おこし・三重さきもり塾」と「美し国おこし・三重さきもり倶楽部」による防災人材育成・実践プロジェクトを応募したところ、全国約200件の応募の中から大変に高い評価を受けて「金賞(教育機関部門)」を受賞することができました。



アクセス

- 近鉄江戸橋(三重大学前)駅から徒歩で約20分
- 津駅から 三重交通路線バスで約15分
- 津駅から タクシーで約10分

お問い合わせ先

みえ防災・減災センター

〒514-8507
三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学 地域イノベーション研究開発拠点 A 棟 3 階
TEL: 059-231-9952
FAX: 059-231-9954
Mail: center@dimo.mie-u.ac.jp